

はたらっく・ゆがわら／はたらっく・ひらつかの活動

「はたらっく・ゆがわら」は
居住支援も展開しています。

「はたらっく・ゆがわら」は、神奈川県から2019年8月就労準備支援事業とともに「居住の安定確保支援事業」を受託しており、今年度は「居住不安定者居宅生活移行支援事業」としてコロナ禍で住まいを無くした困窮者等にも対応が広がってきました。

この事業は基本的に、安定した居住を確保し、地域生活の継続及び自立に向けた礎を築くことを目指しています。具体的には、自力でアパートを探せない利用者に代わって賃貸物件を探し、手続きの支援、引っ越し・生活必需品の買い物支援を行います。しかし、借りる際に必要とされる緊急連絡先・収入証明・親族の連絡先などが無く、アパートを紹介してもらえない場合もあり、支援する私達も必死になって探しまわっている状況です。また、入居後もゴミの出し方から健康・食生活・金銭管理などのサポート、高齢者の見守り、困った時の相談対応など生活自立ができるまでの定着支援を行っています。これまでに高齢者の転居支援を含め11件実施しました。50代から80代までの事情があって住む場所がなくなり、やむなく無料低額宿泊所に入った方や、居宅からグループホームへの転居、生保を受けるにあたり転居される方たちです。全く縁のないところで新生活を始めるのですから、地域で安心して暮らせるようになるまでは「はたらっく・ゆがわら」のサポートは欠かせません。

制度の根本的な充実と社会の理解の広がりを望みながら、この課題の多い事業を個々の状況に寄り添いながら支援をしています。

(すがわら しずか)



転居後の定着支援としてエプロンを製作中です。



ボランティアの依頼を受け折り紙で朝顔を作りました。
特養シーサイドゆがわらの玄関に飾られました。

「はたらっく・ひらつか」は
元気に活動をしています！

平塚市就労準備支援事業が平塚市内に拠点を設け活動を始めて4か月が過ぎました。

現在、利用者は7人（困窮者4人生活保護受給者3人）です。困窮者の相談は、「くらしサポート相談」の名前で平塚市社協に委託、生活保護受給者は平塚市のケースワーカーより依頼が来ます。現在の利用者は20代1人、30代1人、40代1人、50代4人、男性は3人女性は4人で、他市に比べて女性の割合が多いです。

座間とは異なり、1人を除いて就労経験がある方たちですが、利用者が抱える困難は様々にあり、個別に丁寧な支援が求められます。働ける年代なので就労が最終目標になりますが、「はたらっく・ひら



はたらっく・ひらつかの事務所



はたらっく・ざま 合同研修報告

—はたらっく・ざま—

笑顔があふれた

「メンタルの自己管理方法を学ぶ」セミナー

8月31日(火)、昨年度に続き、臨床心理士の照井芳裕さんを講師に『メンタルの自己管理方法を学ぶ』をテーマに、「第2回居場所サロンセミナー」を開催しました。場所は、三密を避けるため相武台前自治会館会議室に移しました。参加予定だった利用者3名が体調不良等で休み、7名の利用者が参加しました。この日はスタッフ研修を兼ね、「はたらっく・ざま」、「はたらっく・ゆがわら」、「みんなの居場所ここから」のスタッフ9名が合流し、合計16名の参加となりました。

最初に、参加者は自分の喜怒哀楽や不安、めまいや痛みなどの心と体の状況をセルフチェックし、これまで自分がやってきた「メンタルの自己管理」のレポートリーをリストアップしました。

この作業を通してメンタルの自己管理方法にタブーは無いこと、自分が「イケナイコト」だと思ってきたゲームやネットサーフィン自分を守る大切な方法だったと知ることができました。何より、笑顔を浮かべ、今の自分でいいんだと分かり気持ちが悪くなった、と語った利用者が多かったことが印象的でした。

この日のセミナーは、支援現場の悩みをよく知る照井さんのお蔭で利用者の自信につながりました。

利用者スタッフの合同研修は2回目ですが、同じ気持ちになって学べる良い研修となっています。

(さわぐち たかし)



つか」に通い始めてまだ日が浅いので、プログラムに参加してもらいながら、様子を見ている段階です。

お楽しみサロンでは、湘南生活クラブ生協理事2人、ボランティア2人も参加して七夕飾りを行いました。理事が自宅から運んできた立派な笹に全員で願い事を書いて飾り、お抹茶を点てながらお菓子をいただく楽しい時間を過ごしました。

初めての協力事業者交流会を8月に開催、いきいき福祉会サポートハウス和、WE21 ジャパンひらつか、ワーカーズ・コレクティブごちそうさま、ワーカーズ・コレクティブデポットひらつかランチの皆さまから、事業内容、仕事のこだわりなどのお話を聞きました。経験がある方たちなので、仕事への質問も多く賑やかな交流会になりました。これから実習に入る方も出てきますので、さらに地域事業所の開拓をしながら、利用者にあった実習先を見つけていく予定です。スタッフは総勢で6人、利用者の顔を思い浮かべながら丁寧な支援を心がけています。(おかだ ゆりこ)



